

# **ITI Scholar NEWS**

## **vol.14 (2024, March)**

### **ITI Section Japan**



**ITI スカラー通信第 14 号をお届けします**

## 井上絢介先生

### Universitäres Zentrum für Zahnmedizin

### Basel (Basel, Switzerland)

2023・2024 年度 ITI スカラーの井上絢介です。この場をお借りして ITI スカラーに選考されるまでにお世話になった方々、ITI section Japan、UZB(Universitäres Zentrum für Zahnmedizin Basel)の方々、そして1年間もスイス バーゼルでインプラント治療やストローマンからのグラントを取得して新しいインプラントやデジタル技術の研究に集中させてくれた家族に心より感謝いたします。

長いようであつという間だった Scholarship year が終わりを迎えようとしています。スカラシップが始まった当初は本当にやっていけるのかと不安でいっぱいでしたが UZB の気さくな上司たちと友人たちのおかげですぐに馴染むことができました。現地での生活は短期滞在や旅行とは訳が違いますので大変なこともたくさんありましたが今となっては全てが良い思い出です。スイス・ドイツ語も最初はなかなか通じませんでしたが時間が経つとともに街での買い物や医局で少し話せるくらいまでには上達しました。

ヨーロッパで最新の病院設備・手術室での治療に携われたことや ITI の headquarter があるバーゼルにて私自身がストローマン社からグラントを取得して新しいインプラントの研究やデジタル技術の研究に携われたことは私の歯科医師人生の宝であり、これからの人生観を大きく変えたと確信しております。

スイスと日本という離れた環境での家族との生活もたくさんの修羅場を乗り越えて、家族の絆は今まで以上に強いものになりました。ここまで支えてくれた妻には感謝しかありません。

スイスでは治療や研究に携わり新しい技術に触れるだけでなく headquarter にいる私が主催して世界中からスイスに集まったスカラー達をバーゼルに招待し ITI headquarter や UZB を紹介する機会もつくることができました。

ITI headquarter では ITI CEO Alexander. Ochsner 氏やスカラー達、本部関係者などの前で私がスイスで携わった研究プロジェクトの1つについてプレゼンテーションを行いました。プレゼンの後で CEO と直接談話を行い ITI Philosophy について確認を行い、さらにこれからの ITI の役割について熱く語り合いました。

スカラシップが終わってからもバーゼルにて携わったプロジェクトの仕事が続くので忙しい日々がしばらくは続きそうです。



上述したバーゼルでの経験はもちろんのことスイスで毎日お世話になった Prof. Michael Bornstein、Prof. Sebastian Kuhl、Prof. Andreas Filippi、Prof. Nicola Zitzmann そして知り合うことのできた他の先生方や病院のスタッフの方々との繋がりお金では買えない人生の財産です。早速、この夏にスイスのある湖にて上司のヨットで会う約束をしています。



大変恐縮ではありますがこの 1 年間で得た経験と学び、そしてこれまでにご指導いただいたことを糧に少しでも ITI Global、ITI section Japan、インプラント治療に貢献できるように精進して参りたいと存じます。最後に改めてこの ITI Scholar 通信を通して ITI Section Japan の皆様方から応援の声をいただいたことに感謝いたします。これからの ITI Scholar の先生方のご活躍や ITI Section Japan の発展と、日本の歯科界の明るい未来を心よりお祈り申し上げます。



ありがとうございました。

